

県立川崎図書館の展示と広報活動

小池 貴子

はじめに

図書館の展示開催は、あるテーマをもとに所蔵資料を紹介し、利用者の興味を高めることで、利用者と図書館を結びつけることにあるが、展示内容から、図書館の公共的価値を解りやすく社会に説明し、一般に知識や教養を深めることができる場所として認知してもらうことで、図書館の利用促進や、他機関との結びつきをより強くする広報活動の一環でもある。

神奈川県立川崎図書館(以下「当館」という)では、地域図書館としての役割を担い、文化的資料を所蔵していた時期もあったが、川崎周辺の地域図書館の充実を受け、県内に2つ目の県立図書館としての役割を明確にすること等を目的とし、1998(平成10)年に「科学と産業の情報ライブラリー」としてリニューアルを行った。リニューアル後は、主に自然科学や、技術工学の資料を中心に所蔵した専門図書館として運営を行っている。当館では、他の公共図書館とは違い、専門性の高い資料を多く所蔵しているため、独自のテーマで展示や広報活動を行ってきた。

本稿では、当館が発行した資料¹⁾をもとに、リニューアル後に開催した展示を中心に、当館の広報活動を辿り記録する。また、当館の展示事例から、図書館では展示を含む広報活動がなぜ必要とされているのかを考える。

1 リニューアル

開館40周年の1998年4月16日、当館は、「科学と産業の情報ライブラリー」として、リニューアルオープンした。

リニューアルでは、図書館内の大きな改築や、改修を行わず、閲覧室の配置を変えて、資料をどのように見せるか工夫を凝らし、なるべく各フロ

アで利用が完結できるようにした。

利用者の導入口となる1階は、特許資料群を要とした知的所有権センター支部となり、規格（JIS や DIN、ASTM 等海外の規格を含む）や、日刊工業新聞等の業界新聞、青少年の理科離れ対策として、自然科学の児童書と入門書で構成された「やさしい科学コーナー」の設置や、情報検索機器の増設などを行った。

また、ミニ展示を行う2階の展示コーナー、催事で利用できるホールはそのままとし、3階閲覧室では、紀要11号で紹介した「クラスタ配置」²⁾が導入された。

以前特許資料室であった4階は社史閲覧室と名称を変え、開館以来コレクションとして収集し書庫に置いていた社史や労働組合史1万冊を移動し公開した。

40周年記念事業では、1年を通し社史関連の講演会やミニ展示をシリーズ化して開催した。ミニ展示は、当館2階つきあたりの6㎡のスペースで、のぞきケース2基と、施設保全課職員の手作りショーウィンドーを活用した小規模な展示である。司書が手作りしたパネルや、企業、関連施設から借用または、職員が持ち寄った展示品とともに、当館の関連資料を紹介していくもので、この時は当館の特色として積極的に広報することを意図していた、社史コレクションを年間のテーマとした。

表1 40周年記念事業のミニ展示シリーズ概要³⁾

| 展示テーマ | 内容 |
|------------|--------------------------------------|
| 形態から見た社史 | 図書・ビデオテープ・CD-ROM等さまざまな形態で発行された社史を展示 |
| 神奈川発祥の社史 | 神奈川発祥の会社と、日本の工業発展を担ってきた工場をあわせて紹介 |
| 創業者の伝記と社史 | 社史の周辺資料として収集している創業者の伝記を紹介 |
| ヒット商品が生まれた | ヒット商品の誕生の経緯をそれぞれの社史にたどり社史のハイライト部分を紹介 |

また、当館の機関誌である「京浜文化」が「科学 EYES」にタイトル変更された。「科学 EYES」は当館の刊行物で、科学技術振興に寄与していくため、毎号様々な分野の科学技術をテーマに定め、年間 2 回発行し、好評を得ており、展示とは違う方法で社会的アプローチを行っている。

リニューアル以前から行われていた学習セミナー、かながわオープン・カレッジは継続され、「ビジネスマンのための知的財産権講座」が開催された。

2 広報委員会の設置

リニューアルの時には、事前の広報活動によって、新聞に取り上げられたり、業界でも注目されていたが、翌 1999 年から、「人文・社会系に比べると、所蔵資料の利用は地味目になることから、今後常に図書館からの情報発信 PR の必要があるだろうとの認識の下、『広報委員会』を発足させた。広報担当は、従来管理部門に属していたが、司書の職員がもっと意識的に広報活動をするようにと、司書を中心とした委員会制の横断組織とした。」⁴⁾

広報委員会では、広報の方法や、イベントの開催等について話し合われていた。県内のベンチャー企業百数十社に対して、所蔵資料とサービス内容を記した案内を FAX で送ったり、県庁内の利用を呼びかけたり、川崎図書館を知ってもらえる機会があれば引き受けて図書館の利用拡大を図った⁵⁾。情報発信の方法を検討していく中で、図書館の所蔵資料をこれからどのような形で、利用者に見せていくか議論を重ねていったことが、現在当館で行われている展示を中心とした広報活動の工夫を、積極的に進めていく基本になったと考えられる。

3 当時のミニ展示の様子と関連講演会の始まり

1999 年は「明日の環境を考える」を年間テーマとして 4 回のミニ展示を開催した。

2000 年 6 月に開催した「テレビゲームの進化ーコンピュータ技術の最先端ー」を紹介する新聞記事⁶⁾によると、「その年新発売された『プレステ

2』が世界的話題を呼んだことから、急速な進化の歴史や日本の情報通信技術を引っ張っている社会的意義などについて知ってもらうことを目的とし開催したこと」や、テレビゲームが誕生してから現在に至るまでの変遷を、約 50 種類のゲーム機器や関連ソフト、攻略本など関連の雑誌や本約 200 点を紹介していることが記され、写真からは、展示ケース、ショーウィンドー内に展示品がパネルとともに並べられている様子や、さまざまなテレビゲームが体験できるコーナーが作られ、利用者が楽しむ様子が紹介されている。

ミニ展示では、職員のコレクションを展示品に活かしながら、他企業や関連施設から展示品を借用し、来館者にパソコン等機器を操作してもらう体験コーナーや、借用ビデオの放映など、利用者と図書館の所蔵資料を結びつける方法を展示毎に司書のアイデアで実施していた。以前のミニ展示では、職員等のコレクションを主に使った展示が主流であった。この時期は、利用者がただ楽しめるだけでなく、当館の資料をバックボーンにした展示が明確化した頃でもあった。

また、2001 年には、専門的な学習ニーズに応えるために開催されていたかながわオープン・カレッジ「イタリアの都市と建築—輝く個性の魅力を探る—」の講座実施期間中に、ミニ展示「折り紙建築イタリア展」を開催するなど、他のイベントと展示を組み合わせた工夫があった。

2005 年 7 月に開催されたミニ展示「巨木は環境のセンサー」から、その展示関連講演会として、展示のテーマに沿った講演会の開催が始まり、現在もこの形でミニ展示関連講演会が開催されている。展示と、講演会の広報を行うことで、当館をより多くの利用者に PR することができ、新たな利用者呼び込み、リピーターの拡大にもつながっている。

4 リニューアル後の展示以外の広報活動

2005 年 10 月、特許情報や規格資料、実業家伝記、業界新聞、創業・経営革新等啓発ビデオなど関係資料約 7.200 冊を集約し、1 階をそれまでの知的所有権センター支部から「ビジネス支援室」と名称を変更した。名称

変更後、1階に配置された資料が明確にされたことから、知財や商標、ものづくりに関する展示テーマの可能性も広がった。またこの前後から、特許検索データベースの活用講座なども始まった。3階では、「科学技術室」に、4階は「社史室」と名称を変更し、図書館のサービスを強化し、広報媒体等も見直した⁷⁾。

翌年以降から、「ビジネス支援シリーズ講演会」、近年本を出版した著者を招き講演していただく「著者が語る」、「サイエンスカフェ」、文字・活字文化の日を記念した「文字・活字文化の日記念講演会」など企画が年々増加し、多数の講演会や講座が開催された。

中でも、「サイエンスカフェ」は、飲みものを片手に、科学者などの専門家から話を聞きながら、一般の参加者とともに、その専門分野について気軽に語り合い、楽しみながら知識を深めていく新しいイベントで、日本の「サイエンスカフェ元(2005)年」の翌2006年から開催している。初の開催以降、チラシのデザインや、内容をより特徴的に変更し配布を行い、記者クラブへの挨拶まわり、近隣施設へポスターの掲示を依頼するなど熱心な広報活動の結果、少しずつ参加者が増加し、現在では抽選を行う程人気のあるイベントとなった。抽選でサイエンスカフェに参加できなかった人にも、雰囲気や内容を知らせる方法として、ホームページの上で、結果報告を行うようになった。講演会など、イベント開催では、会場に主題に沿った当館所蔵の関連資料を置き、聴講者に資料を手にとって貰えるような工夫も行っている。

5 電算化に伴う広報活動の変化

1991年以降少しずつ図書館サービスが電算化され、パソコンでの運用も始まっていた。1999年には、図書館のインターネットを利用した情報提供サービスの充実化がはかられ、2000年問題を前に電算システムも更新した。旧システムに加えホームページによる情報提供サービス、所蔵検索OPACの開設、電子メールによるレファレンスの開始が実現した。このことから、ホームページからの情報発信も可能となり、Webによる広報活動も始まっ

た。後に、2010年からは県立2館によるブログ風「司書の出番！」のHP掲載や、2012年からは写真と簡単な文章で「図書館の今」を、Twitterを媒介として伝える「クリッピング！」の活用も行われるようになった。



図1 50周年記念展示の様子

6 川崎図書館の50周年事業

2008年には、開館50周年を迎え、記念行事を行った。特別展示「県立川崎図書館50年の歩み&未来の図書館に触れてみよう！」が2階の展示スペースで行われ、当館の50年の年表をパネルにして、当館の歴史を紹介するパネルとともに掲示した。また、新設の図書館ではすでに導入が始まっていたICタグやe-bookなどを利用者の視点から紹介した。

50周年を迎える頃には既に、パソコンによる資料作成が主流となり、看板によって手作り感を残しながらも、印刷物での展示パネルが増えたことで、展示の雰囲気もいつのまにか変化していた。記念事業では、講演会を7回シリーズにし、多様なテーマで講師を招き開催、「シネマ・トーク&トーク」で実業家をテーマとした映画の上映会とその映画を製作した映画監督のトークイベント、図書館のバックヤードを紹介する体験ツアーを開催した。

イベントの多種多様化により、ポスターや、チラシの作製、配布など行ってきたが、県の広報誌、「県のたより」の参加者募集欄の掲載や、当館周辺と川崎駅周辺施設へポスターの掲示依頼、川崎周辺の各新聞支局への挨

拶まわり、県内、時には県外の市町村図書館、博物館や科学館などの文化教育施設、大学図書館へのチラシの配布等基本的な広報用のルート等が構築されてきており、通常に開催するイベントを知らせるための広報活動の方法も定まってきた。

7 各閲覧室内の展示と広報活動

7.1 3階科学技術室

2009年頃からは、ミニ展示のほかに、科学の理解をもっと深めてもらえる様、閲覧室内での展示等広報活動も増えていった。

3階科学技術室内では、2005年12月から一般の利用者でも身近に感じられるようなテーマで、資料を紹介する「ポピュラーサイエンスコーナー」の展示がはじまり、最初のテーマは当時、耐震偽装問題が発生し話題となっていたため「耐震設計・構造計算」であった。展示場所は、科学技術室入口付近で、当初は、図書が主だったが、現在は関連雑誌の展示も行うようになってきている。展示方法も、書架の利用から、机上で展示する方法に変更し、机数台で組み合わせ形態を毎回変えながら、展示を行うようになった。時には机を日本列島のように並べたり、2015年10月には、天井から吊り下げた垂れ幕を製作し、展示するなど工夫が継続されている。

表2 2014年ポピュラーサイエンスの展示テーマ

| 展示テーマ |
|-------------------------|
| ワールドカップブラジル大会 出場国の化学会雑誌 |
| 戦後日本のイノベーション100選 |
| 鉄 |
| 東海道新幹線50年 |
| 祝 土木学会創立100周年 |
| 電腦社会で身を守る |
| 川崎図書館で図鑑を楽しむ |
| The 北陸 |



図2 ポピュラーサイエンスコーナーと Science Now! コーナー



図3 2013年当時の科学者の「伝記コーナー」

ポピュラーサイエンスの他に、2008年9月から、注目を集めている科学や技術の話題を随時取り上げ、パネルとともに所蔵図書、雑誌を展示紹介する「Science Now!」(サイエンス・ナウ) コーナーが設置され、2009年頃から2013年まで、科学者の伝記書架を利用した「伝記コーナー」展示が行われていた。この展示は取り上げた一人の科学者のことを詳細に調査し、パネルに反映させた。絵本のような仕組みのパネルを作ってみたり、クイズを作って、正解も飛び出すような仕掛けを作って展示する工夫がみられ、評判が良いと、ミニ展示に応用した時もあった。

「Science Now!」(サイエンス・ナウ) コーナーでは、世間で話題となっていることをすぐに取り上げるため、準備時間をさほど取らないよう、当初パネル化していた展示資料を、クリアケースに挟むように変えたり、展示内容を長い文章で説明していたのを、なるべく短い文章で表現できるように試みたり、時間をかけずに展示していく工夫が現在も行われている。

また、一年の短期間ではあったが、2010年国民読書年を広報していくために科学や技術の発展に大きな貢献をした古典的名著を紹介する、「科学の古径」(かがくのみち)を展示していた。内容は、ガリレオの『天文対話』、ファラデー『ろうそくの科学』、中谷宇吉郎『雪の研究』などであった。

当館の広報紙として、1995年12月に発行されて以来継続していた、図書館PRを目的とする『PaReT』(Patent Reference books Technology)が、2005年には「科学と産業のライブラリーニュース」、2009年には「Science Industry Library」という意味の「SiL」(知る)という名称に変更しながら現在は季刊で刊行されている。内容は図書館で開催予定のイベント紹介や、おすすめの新着図書、利用サービスの説明など多岐にわたっている。最近は、当館職員の仕事の紹介などや、リニューアル15周年記念号では、クイズを作って、当時は当館の現在とどのように違ったのか紹介する試みや、図書館探検ツアーすごろくを作って掲載する等、図書館のことを楽しく知って利用してもらえる様工夫して制作を行っている。

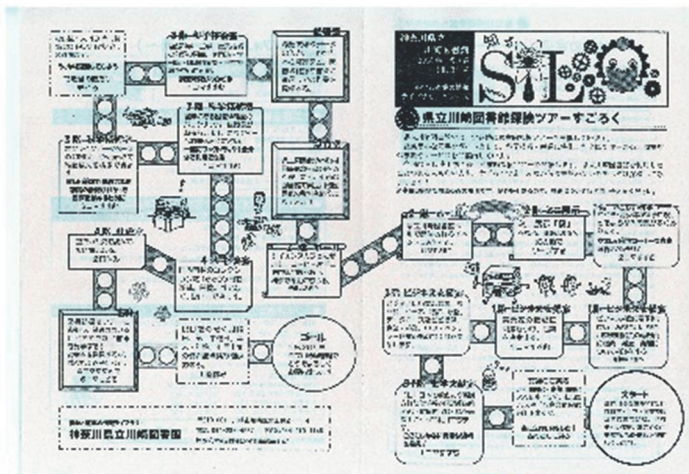


図4 広報紙「SIL」

所蔵雑誌関連では、1971年から、自然、産業に関連する時事的問題の中からテーマを決めて発行する「主題別文献目録」も発行している。これは、年に2度発行しているが、2006年から「テーマ別文献目録」と更に名称を変えて継続している。文献目録の発行は、利用者の資料検索支援とレファレンスサービスの充実に寄与するところが多い。

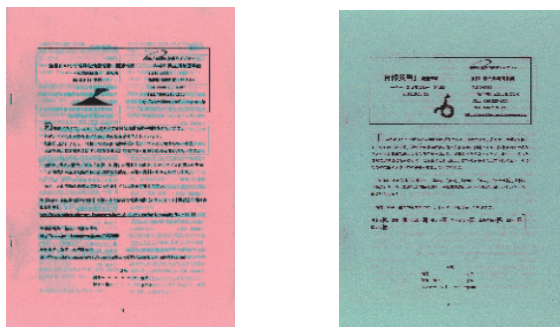


図5 テーマ別文献目録

他に、当館の司書が講師となって、図書館の利用方法をテーマに分けて案内する「ユーザーサポートガイダンス」（後に「資料の調べ方講座」と改称）では、当館のホームページから利用できる所蔵検索の検索方法や、科学技術論文データベースの使い方などを解説した。また、50周年記念事業であった図書館体験ツアーを発端とし、「図書館探検ツアー」も年に4回開催している。

7.2 1階ビジネス支援室

1階のビジネス支援室では、推薦図書の展示を行っている。図書館が、地域の産業・工業団体と利用者との接点となるように、年に2回、川崎商工会議所を始めとする産業関連11団体から本を推薦してもらい、入り口すぐの場所に展示している。推薦図書は、人気が高く貸出利用が多いので、利用促進にもつながる展示である。また、専門家による「創業・経営相談」、特許申請の足掛かりとなる「発明相談」や、ビジネス支援サービスの一環とし、多様・多彩で有用なビジネスパーソンに提供するトークイベント「ビジネス支援トーク」、知的財産について図書館で学べる場を提供する、年に4～5回の「知的財産講座」を開催している。やさしい科学コーナーでは科学実験教室や映画会の開催、他にパソコン講習会等、実施されているイベントは多彩である。

2010年から、「ビジネス本レコメンド」として、月1回ペースで展示を行っている。1階カウンター前のビジネス本コーナー書架を利用し、「手帳活用術」、「和食文化・食の安全」「失敗は成長のもと 失敗にまつわるエトセトラ」等テーマを選び、おすすめ本にPOPで内容説明をつけ紹介している。こちらも利用促進につながっている。

2013年からは、やさしい科学コーナーで、来館者に入門図書を気軽に手にとってもらうため、月1回のペースで入門資料の展示を行っている。展示内容は、「栽培」や「お月見」「学習漫画で勉強しよう」など身近なテーマであるが、資料とともに、手作りの装飾と、展示品が置かれ、低年齢の利用者でも興味を持ってもらえる様、工夫が行われている。

2014年からは、1階入り口推薦図書展示コーナーの隣に、「アプローチ展示」を開始した。これは、当館の導入口の展示として、一定のテーマを選び主に1階の資料も利用するが、テーマに沿った内容の所蔵資料を当館全体から集め、当館にまず興味を持ってもらうことを目的とし行われている。「東芝科学博物館」がリニューアルオープンした時には、東芝関連図書を館全体の所蔵資料から集めて展示した。

アプローチ展示と、やさしい科学コーナーの展示では、展示している資料や、関連所蔵資料の目録を制作し、配布している。

刊行物では、1998年5月に創刊された「やさしい科学コーナー」の資料を紹介する、「やまねこしんぶん」後に「やさしい科学しんぶん」と紙名変更された広報紙が発行されている。隔月刊であったが、紙名変更の際2005年に季刊となった。内容は初めのころ、おすすめの資料の紹介などが主であったが、一定のテーマ内容にそった資料の紹介へと変わっていった。



図6 1階ビジネス支援室展示の様子と「やさしい科学しんぶん」

7.3 社史室

4階社史閲覧室では、2012年には社史の使い方や、社史の楽しさ、社史情報の発信を目的とし、広報紙「社楽」（しゃらく）の発行を始め、月1回のペースで現在も継続している。

内容は、社史室でよく聞かれる検索の方法から、新着社史の紹介、社史室で一番厚い社史を探した結果を掲載する等、社史をあらゆる方向から見

つめ魅力を引き出し紹介している。

2013年から「社史の窓辺」という名称で、利用向上を目的とした社史の展示コーナーが始まり、「マンガの社史」や、「社楽」で取り上げた社史を展示し、社史を更に親んでもらえる様、工夫している。最近では、3階の展示ポピュラーサイエンスコーナーで、ノーベル賞受賞の展示が始まると、受賞の実験に関わった企業の社史を展示するなど、連動させ、各階へ利用者を誘導する導線となるような工夫も行っている。

また、当館の社史担当司書が2011年から何度か、神奈川新聞や、東洋経済オンラインでコラムを連載した、社史についての紹介記事は、当館自体の広報活動にもつながるもので、社史室や社史の広報活動として非常に有意義な事だった。

社史制作を支援する「社史ができるまで」の講演会の開催も20回に及ぶ。参加者は主に社史制作にかかわるビジネスマンだが、企業に興味のある一般利用者の参加も見られ、参加者が多数で、大変人気のある講演会へと成長している。参加者のアンケート等、意見から、2014年、2015年と続けて当館が所蔵する直近1年刊行で、最新の社史約200冊を2階ホール内で閲覧できるようにした「社史フェア」を開催した。2014年は3日間で103名、2015年度は4日間に拡大して203名の来館者があり、会場では、社史1冊ずつに資料の内容を含めた資料情報を添えNDC順に並べ、紹介している社史の目録を作り、配布した。また、職員有志で、デザインTシャツを作り、会場内だけでなく、カウンター内等でもTシャツを着用しフェアを広報した。



図7 4階社史室展示・広報紙「社楽」・社史フェア

8 現在のミニ展示

ミニ展示は、2006年には7回、2007年から2012年は5～6回開催していたが、現在では、3課持ち回りで担当し、それぞれテーマを決め、年に4回程度開催している。

建築系の展示では、建造物の模型を職員が手作りし、キノコのテーマの時には看板制作で職員一人一人が書いたきのこの絵を並べたり、小型探査機「はやぶさ」をテーマにした時は職員が手作りのはやぶさを天井から下げたりした。「社史にみるキャラクター展」や「ゆるきゃら®と商標」等キャラクターを利用した展示では、職員が持参したキャラクターや他自治体からの借用も含め全都道府県のキャラクターが集まった。

開催したミニ展示の中には、県内の市町村図書館へパネル等を貸出したこともある。2011年「東京スカイツリーとタワー建築」では、5館から要望があり、貸出を行った。

また、大阪府立中之島図書館との共同開催で、近年刊行された両館所蔵社史の中から、何点か展示し、利用者に投票してもらい、グランプリを決める利用者参加型の「社史グランプリ」という展示を2012年5月11日から7月11日まで行った。多くの新聞等に取り上げられ、「社史の川崎図書館」を印象づけることに成功した。

展示の際には、クイズを作成し、自作のポストカードを渡すなど、展示を観た後に、持って帰れるような手作りのしおりや、ペーパークラフト用の資料を製作し、配布している。

作ったしおりなどは、図書館を紹介するイベント等に参加者に配布し、展示後も利用している。

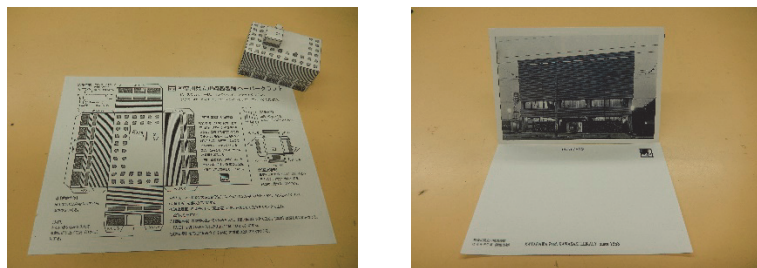


図8 ペーパークラフトと絵葉書



図9 開催したイベント記録の掲示

館内の掲示についてもリニューアル後、利用促進、サービスの周知のため工夫を行ってきたが、2階ホール前通路の壁面両側には、当館で開催したイベントの開催記録と、4階社史室入口前の掲示板には、「社史ができるまで講演会」の開催記録を掲示している。これは、当館を訪れた利用者にとって、どのようなイベントが開催されているのか、視覚的に理解できるため、次回参加につながる広報資料として、有意義である。

表3 ミニ展示のテーマ

| 年度 | 展示テーマ | 年度 | 展示テーマ |
|------|----------------------------|--|---------------------------------|
| 1999 | かながわの植物と自然保護 | 2005 | かながわの名産100選 |
| | 地球環境と海 | | 巨木は環境のセンサー |
| | ラベルから見る環境と安全 | | 駅名になった実業家達 - 鶴見駅と人名駅 - |
| | 環境型社会に向けたリサイクルのとりくみ | | LRT (次世代型路面電車人と環境にやさしい都市交通システム) |
| 2000 | テレビゲームの進化 | 2006 | 科学技術に魅せられた女性たち |
| | 香りの魅力 | | Stop! 温暖化地球環境と私たちの暮らし |
| | 記録メディアいま・むかし | | 食の科学 食の安全 |
| 2001 | 書庫に眠る大型本 | 2007 | 生態学フェア 植物生態学のフィールドから |
| | 折り紙建築イタリア展 | | 生誕100年 本田宗一郎 |
| | 足元の自然 - 身近な植物に親しむ - | | 日本の十大発明家—時代を切り拓いた先達 |
| 2002 | 伝記に見るライト兄弟の世界 | | 燃料電池と未来エネルギー |
| | 社史に見る社名の由来とヒット商品—景品地区から世界へ | 昭和のものづくり力 | |
| | 保存と再生・古民家展—日本の住文化を日常にいかす | 植物図譜 図鑑の世界 | |
| | 不思議な動物たち?? | キュリー夫人とノーベル賞をとった女性科学者たち『黒部の太陽』を書いた男木本政次と巨大プロジェクト | |
| 2003 | 紅とおしろい—ときめきの世界 化粧品 | 2008 | あらためまして和算です—関孝和没後300年記念— |
| | かながわの鉄道 | | インスタントラーメン50年の歴史～日本が生んだ世界食 |
| 2004 | ロボット | 地球温暖化への警鐘—I P C C 20年の歩み | |
| | 川崎とともに歩んだ企業と産業展 | ペンシルロケットから半世紀—日本の宇宙開発の歩み | |
| | 地震と防災 | 県立図書館50年の歩み&未来の図書館に触れてみよう! | |
| | バードカービングの魅力—都市鳥に親しむ | 江戸商家に学ぶ企業倫理—家訓とCSR— | |
| | | | ロボット技術の現在 |

| 年度 | 展示テーマ | 年度 | 展示テーマ |
|----------------------------|----------------------------------|-----------------|-------------------------|
| 2009 | 宇宙（そら）を観る—2009年は世界天文年ガリレオから400年— | 2012 | イグ・ノーベル賞に注目！ |
| | 北極観測—海洋地球船『みらい』からの温暖化報告 | | みんなで選ぶ社史グランプリ - 東西図書館投票 |
| | 小さいもの集まれ！微生物の世界 | | 南の海で生まれた丹沢・伊豆の化石 |
| | 『優秀社史賞』受賞社史展 | | 進化しつづける電気洗濯機 |
| | かながわの産業遺産物語 | | 読む知る感じる夢見ヶ崎動物公園 |
| 2010 | 大地が語る地球の魅力—人と地球の魅力を語るジオパーク— | 2013 | 辰野金吾と丸の内 |
| | 包装の美と技術の歩み | | 星に親しむ |
| | 小惑星探査機『はやぶさ』の冒険 | | 図書館空港 空を飛ぶ技術 |
| | 技能ルネッサンス！かながわ2010 | | 橋 - 形と技術 - |
| | できる会社～昭和生まれの創業者「社是・格言・名言」 | | 2014 |
| "はかる"技術 | かわさき区のたからもの | | |
| 自然と産業を知って復興に願いを！東北地方の産業と自然 | キノコとその仲間たち | | |
| ノーベル賞からのメッセージ | ゆるキャラ®と商標 | | |
| 社史にみる企業キャラクター | 2015 | 自然×ひらめき=新技術 | |
| いま日本の森を…-2011国際森林年- | | ハイ パフォーマンス ベーパー | |
| 三浦半島のとっておきの風景 | | | |
| 東京スカイツリーとタワー建築 | | | |
| | | | |

おわりに

2015年9月にテレビ朝日「タモリ倶楽部」の番組で当館社史室の特集が放映された。当館の窓に、ある職員の提案で、放映日時の緊急告知を貼ったところ、通行人が発信したTwitterで拡散されるなど広報効果が得られたことが確認された。図書館ホームページの「クリッピング！」でもその模様をツイートしたところ、フォローやリツイートで拡散された。

また、当館のキャラクターとして「かわとくん」が職員の手でデザインされ、「図書館総合展 2015」の「キャラクターグランプリ」にエントリーし、全国デビューも果たした。審査時には、「みんなで『かわとくん』プロジェクト」とし、職員全員が順に「かわとくん」をかぶった写真を作品集としてパワーポイントで発表し、開催期間中には、「かわとくん」をかぶって会場内を歩きアピールした結果、「館の働きもの」部門で、来場者投票の準グランプリと、審査委員会賞をダブルで受賞した。この受賞で、当館の名を業界に広めることができた。また、今後も当館の「かわとくん」を様々

な方法で広報に活用していきたい。

今回の調査で、残念だったのは、行ってきた多様な広報活動の内容が全て残っていると見えなかった点である。例えば、利用案内等は毎年のように更新しているが、開館当初のものはもう残っていない。また、使用した資料で足りない部分は、当時携わった職員から聞き取り調査し補った。

一般的な広報活動は常に環境の変化に合わせて進化させていかなければならないが、このことから、刊行物だけでなく、広報活動の内容を継続して残しておくことも必要だと痛感する。保管場所の確保などの問題もあるので、ある特定のものだけに決めて保存する手段もあるのではないかと考える。

人々の口コミを活用する手段など、広報活動も多種多様となっている。最近では電子化された情報が飛び交う社会となっているが、広報を行うことのできるツールもどんどん増加しているため、発信する情報や使用ツールの慎重な選択も必要となってきた。情報発信として、図書館内で行う展示は、リスクも少なく、直接来館した利用者に対しダイレクトに当館の理解を深めてもらえる。図書館PRは、何度も何度も繰り返すことにより、周知されていくものであるから、展示の開催を重ねることは、図書館への理解を更に深めていく広報活動の中心的存在となる。そのため、図書館では、展示開催による広報活動が必要であると考ええる。

川崎図書館の重点的な取り組み⁸⁾として「3 知の機会」の提供では「図書館資料を活用したタイムリーで魅力のある展示や講演会、講習会など多彩な催しを開催し、『いつも何か面白いことがある』図書館をアピールするとともに、各機関と連携し、『サイエンスカフェ』など情報交流の場の提供にも努め、『人と情報』『人と人』のつながる場としての図書館像を提示していく。」また、「4 情報発信の充実」では、「特徴ある資料の目録作成・公開に積極的に取り組む。県の広報媒体や、新聞・雑誌・放送などのパブリシティの積極的な活用により、当館の利用の促進を図る。また図書館ホームページ等の充実等により、県民に役立つ図書館運営に努める。」と積極的に取り組むべき方向を示している。

この取り組みを実践して当館の利用促進につなげていくためには、当館

の基本姿勢である「みんなで面白がって仕事をしよう」に基づいて、多くの職員参加型による、独自のテーマで開催する展示を中心とした広報活動が必要不可欠と考える。

図書館の展示開催は、図書館の特色を利用者へダイレクトに伝えることができるので、利用者が図書館の公共的価値を認知しやすい、重要なツールである。今後も、展示の開催が、当館の広報活動の要となっていくという認識のもと、より面白い展示の工夫を続けていきたい。



図10 「タモリ倶楽部」放映緊急告知の様子と「かわとくん」PR

引用・参考文献

- 1) 神奈川県立川崎図書館. 神奈川県立川崎図書館 50 年史. 2008, 100p.
神奈川県立川崎図書館・神奈川県立川崎図書館事業概要. 1999-2012.
神奈川県立川崎図書館・神奈川県立川崎図書館要覧. 2013-2015.
- 2) 内海暁子. 神奈川県立川崎図書館における「クラスタ配置」の変遷—NDC にと
られない排架方法の模索—. 神奈川県立図書館紀要. 2014, no. 11, p. 67-91.
- 3) 9 集会活動の状況 (4) ミニ展. 神奈川県立川崎図書館平成 11 年度事業概
要. 1999, p 10.
- 4) 若杉秀子. 神奈川県立川崎図書館のリニューアルと人材育成 (研修). 情報管
理. 1999, 41 (10), p809-p817.
- 5) 大塚敏高. 「科学と産業の情報ライブラリー」を目指す神奈川県立川崎図書館
の挑戦. 専門図書館. 2001, 185, p43-p49.
- 6) 1958 年の世界第 1 号機～最新機種 ゲーム機の進化紹介 実物や資料など
200 点展示. 神奈川新聞. 2000. 6. 21, 朝刊, 23 面.
- 7) 鈴木良雄. 公立図書館とアイデンティティ. 情報の科学と技術. 2006, 56 (2),
p46-51.
- 8) “4 平成 27 年度 県立川崎図書館の取り組み(3)重点的な取り組み. 3「知の機
会」の提供. 4 情報発信の充実”. 神奈川県立川崎図書館. 平成 27 年度要覧. 2015,
p5.